

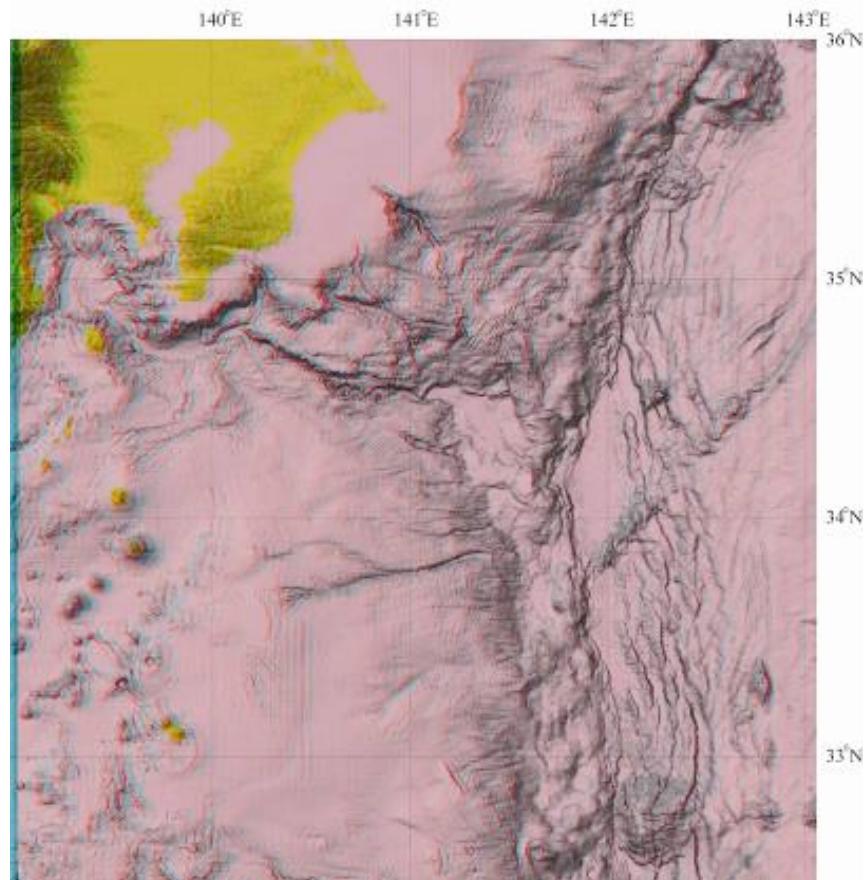
## P02. 相模トラフから房総三重会合点の 3D 海底地形図

海洋調査課 泉 紀明・技術国際課海洋研究室 西澤あずさ・海洋調査課大陸棚調査室 堀内大嗣・海洋情報課 岩淵洋・海洋研究開発機構 木戸ゆかり・広島大学 中田高、後藤秀昭・東洋大学 渡辺満久・名古屋大学 鈴木康弘

海洋情報部は海底地形に関する共同研究を広島大学と実施しており、伊豆沖から房総沖にかけての海域で、海洋研究開発機構と海上保安庁が得たマルチビーム測深データの再集積を行った。集積を行う過程で不自然なデータやエラーデータの削除、重複調査箇所での品質判断による選別を行い、150m グリッドの数値地形モデルを作成した。これをもとに立体視できる画像を作成し、地形の解釈を行った。

相模沖から房総沖にかけては太平洋プレート、北アメリカプレート、そしてフィリピン海プレートという 3 つのプレートがせめぎあって存在している。そのため例えば相模トラフから三重会合点にかけての海域では元禄関東地震や大正関東地震、房総沖地震など M7~8 クラスの海溝型地震が発生している。相模トラフの延長上は内陸へと伸びており、陸上や沿岸域と関係付けた調査や、海域においてもこれまで数多くの構造調査や地形調査が行われてきている。

今回作成した立体画像からはプレート境界域の複雑な地形や、起伏に富む海底地形がこれまで以上に詳細に、かつ簡単に読み取れるようになった。これらは日本周辺海底地形への理解や活断層の判別に有効な手段となるだろう。



作成した立体図